

情報公開用文書(附属病院で実施する医学系研究)

西暦 2017 年 4 月 13 日作成

研究課題名	限局期びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の R-CHOP 療法後の長期予後の検討 YACHT ML1601-01
研究の対象	対象は 2003 年～2009 年に横浜市立大学附属病院血液・免疫・感染症内科学教室の関連施設において R-CHOP 療法 6-8 サイクルの治療を受けた限局期 DLBCL 190 例です。当院においては上記対象症例中、16 歳以上の 31 例を対象とします。対象患者さんが本研究に参加することを拒否する権利、および拒否により不利益を被らないことを保証します。
研究の目的	限局期びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の R-CHOP 療法後の長期予後を検討します。
研究の概要	限局期びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対し、初回治療として R-CHOP 療法を行った症例の長期予後を解析し、予後に影響を与える因子の解析を行います。
研究の方法	既存の診療録から臨床情報を収集し、解析ソフトで解析を行う。予後に影響を与える因子として主に診断時の検査所見、臨床症状などの臨床データや化学療法の治療効果、再発などの予後についての情報を収集し、長期予後へ影響を与える因子を統計学的解析によって抽出します。神奈川県立がんセンター腫瘍内科 酒井リカ医師を研究代表者とする多施設共同後方視的調査研究であり、横浜市立大学附属病院、市民総合医療センターなど、計 9 施設が参加します。
研究期間	西暦 2017 年 4 月 27 日 ～ 西暦 2019 年 3 月 31 日
個人情報保護に関する配慮	研究対象者の氏名、イニシャルは本研究の調査項目に含まれないため、個人同定可能な情報はほとんどありません。記入済みの調査票やデータベースは、本研究にかかわる研究者以外がアクセスできないよう管理・保管につとめます。連結可能匿名化のため、連結表は施設内で施設責任者が厳重に管理致します。
<p>本研究のために、患者さんにあらたな負担や危険が生じることはありません。患者さんもしくはご家族の方等がこの研究へのご参加を希望されない場合は、以下の連絡先までご連絡いただけましたら、その方の診療録情報は本研究に利用しないようにいたします。本研究への参加をお断りになられたとしても、不利益になることは一切ございません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9</p> <p>横浜市立大学附属病院 血液・免疫・感染症内科 松本 憲二</p> <p>電話番号：045-787-2800（代表）</p> <p>FAX：045-786-3444</p>	